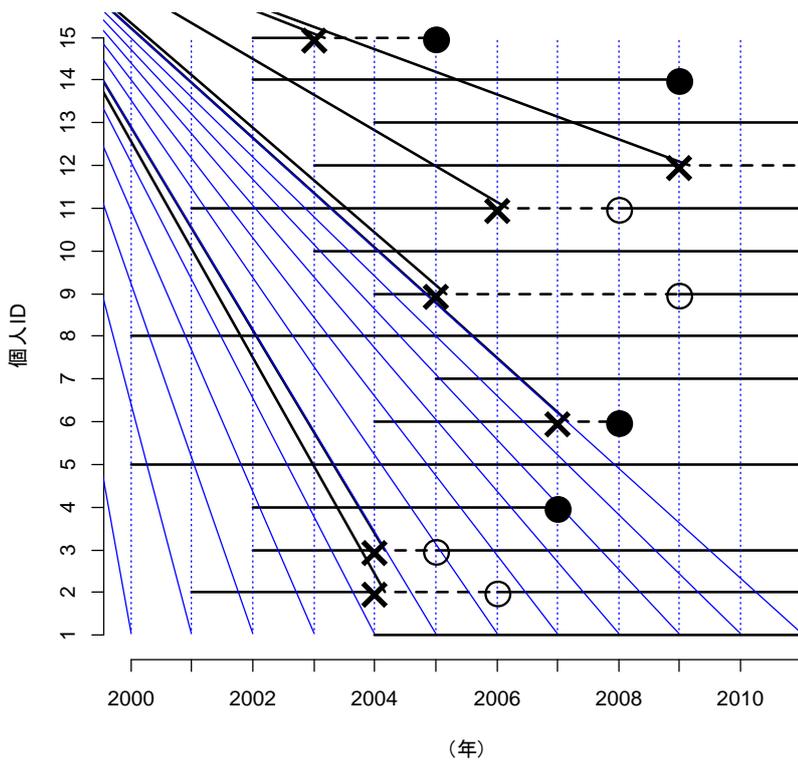


疫学（看護2年） 2014年10月24日 計算練習

1. 下図は、15人の対象者について、2000年から2011年の観察結果である。

実線が健康で観察中、×が発病、破線が病気で観察中、黒丸が死亡、白丸が治癒を意味する。

- (1) 2008年における有病割合(prevalence proportion)を計算せよ
- (2) 全観察期間についての発病リスク(risk=cumulative incidence rate)を計算せよ
- (3) 全観察期間についての罹患率(incidence rate)を計算せよ



2. ある危険因子に曝露した人20人（曝露群）と曝露していない人20人（非曝露群）について同時に観察を始め、10年後に観察を終了した。曝露群では3年後に5人、4年後に3人が発病し、他の12人は10年経っても発病しなかった。非曝露群では6年後に1人、8年後に1人が発病し、他の18人は10年経っても発病しなかった。発病した人はいずれの群でも10年後の時点でも治癒していなかった。

- (1) 危険因子曝露による発病の罹患率比(incidence rate ratio)を計算せよ
- (2) 危険因子曝露による発病のリスク比(risk ratio)を計算せよ
  - \* 罹患率比とリスク比を総称して相対危険(relative risk)と呼ぶ
- (3) 危険因子曝露による発病の罹患率差(incidence rate difference)を計算せよ
- (4) 危険因子曝露による発病のリスク差(risk difference)を計算せよ
  - \* 罹患率差とリスク差の総称は超過危険(excess risk)や寄与危険(attributable risk)
- (5) 危険因子曝露の寄与危険割合(attributable risk proportion=attributable fraction)を計算せよ